



たいじゅ もり
大樹の森

8.9月号



<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fudomaru/>



どうして勉強をしないといけないの？

校長 山下 謙一郎

長かった夏休みが終わり、元気な子どもたちの声が帰ってきました。大きなバッグに荷物をたくさん入れて、正門に向かってくる姿は4月よりも確実にたくましく見えます。どの子どもも一回り成長して、不動丸小学校に戻ってきました。

さて、子どもたちによくこんな質問をされることがあります。「どうして勉強をしないといけないの?」。私も小学生の頃、先生や親に投げかけたことを思い出します。でも、返ってくる答えは、「子どもは勉強するものだから。」とか「大きくなったら必要になるから。」といった具合に、どうもじっくりこないものばかりで、小学生の私にはなかなか納得のいく答えではありませんでした。「字が書けて計算ができれば、あとは特にやらなくてもいいのでは…?」と考えることが多く、結局、よく分からないけれど仕方ないから勉強していたことを覚えています。

ある時、こんな言葉を教えてくれた先生がいました。それは「無用の用」という言葉です。国語辞典で調べると、「一見、役に立たないと思われるものが、実は大きな役割を果たしている」と書いてあります。その先生の話では、「確かに勉強したことすべてが自分の人生に役に立つわけではない。でも、最低限必要なことだけやっていたら、その人はいつもギリギリで危険な人生を歩むことになるかもしれないね。漢字や計算以外の勉強にもいろいろと取り組むことで、自分の知識や経験が豊かになれば、きっといろいろな人生にチャレンジできる可能性を広げることができるんだ。」というものでした。面積の公式や植物の光合成など、今学んでいることは、これからの日常生活にはあまり必要ないかもしれませんが、でも、もしかしたらその知識が必要なときに、それらを知っていることは自分の自信や力になることでしょう。そう考えると、勉強したことはすべて「無用の用」として、自分を高めることにつながるのだな、と少し納得できたような気がしました。

なぜ自分は学ぶのか、なぜ自分は勉強するのか。きっと一度はみんな考えることだと思います。自分が納得できると、勉強することに意味がもてます。一人ひとり意味はちがっていい。自分なりに学ぶ意味を見つけてみませんか？